



図書館だより

さいたま市立つばさ小学校 図書館

月の満ち欠けを基にした旧暦では12月のことを「師走」といいます。日本には春、夏、秋、冬の四季があります。これをさらに6等分して半月ごとにつけた名前を二十四節気といいます。

12月7日ごろから21日ごろを「大雪」。22日ごろから1月4日ごろを「冬至」といいます。寒さも一段と厳しくなり、冬至には、栄養豊かなかぼちゃを食べて、無病息災を願う風習が残っています。

12月の貸し出しについて

12月7日（木）までは、通常貸し出しです。

12月8日（金）～12月14日（木）は、冬休み用の3冊を貸し出します。

☆12月15日（金）から20日（水）は、予備日です。学年に関係なく、本を返却していない人、まだ3冊借りていない人のみ、図書室にきてください。交換はしません。

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11 (☺)	12	13	14	15	16
17	18 (☺)	19	20	21	22	23
24	25 (☺)	26	27	28	29	30
31						

<図書館カレンダー>

- 3冊貸し出し
- 休館日
- 冬休み
- 予備日

◎ 1月の貸し出しは、1月16日（火）からです。



図書委員会からの

お知らせ

《ミニコンサート》

《ミニゲーム体験》



日時 12月5日・12日・19日 火曜日の業間休み

ペープサートや、ミニゲームで楽しもう！図書委員が準備中！ぜひ、図書室にきてください。

母 1・2年生の利用日ですが、他の学年も見学できます。

(5日・12日に本を借りるのは1・2年生のみ。返却はできます。)



冬休みは、本を3冊借りられます。
『どんな本を読もう・・・?』と迷った時のヒントになるよう、
おすすめの本を紹介します。クリスマスやお正月、楽しいこと
がたくさんあります。読書の時間も楽しんでください！



好きな作家の作品を読もう！



本の題名は知っていても、作者を覚えていないこと、ありませんか？

心に残っている本の作者が、ほかにどんな作品を書いているか調べて読んでみましょう。

作家名	作品	内容
バージニア・リー・パートン	『ちいさいおうち』 (岩波書店)	静かないなかに、ちいさなおうちがたっていました。リンゴの木や畑にかこまれて、とてもしあわせでしたが、まわりに工場がたち、電車が通って、だんだんにぎやかな町になっていきます。
	『はたらきもの じよせつしゃけいていー』 (福音館書店)	けいていーは、キャタピラーの付いている赤いりっぱなトラクターです。夏はブルドーザー、冬はじよせつきを付け活躍します。
	『せいめいのれきし』 (岩波書店)	地球の上での生命の歴史。それは、序幕はあっても終幕のない、大きな大きな劇。銀河系のたんじょうから現在の人々の生活までが、美しい絵とリズムのある文で紹介されています。
にのみなんきち 新見南吉	『ごんぎつね』 (ポプラ社)	両親のいない子狐の「ごん」は、いたずらばかりして村人を困らせていました。ある日、兵十が病氣のお母さんのために捕まえたうなぎをとってしまったことの罪を償おうとしますが。。
	『てぶくろを買いに』 (大日本図書)	寒い冬がやって来て、母ぎつねは、子ぎつねにあたたかい毛糸の手ぶくろを買ってやろうと思ひ、子ぎつねの片手を人間の手に変え、白銅貨をにぎらせ、人間たちのいる町へ送り出します。
	『かにのしょうばい』 (すずき出版)	いろいろ考えて、かには床屋を始めましたが、ひとりもお客さんがやってきません。かにはお客さんを探して海に行きますが、毛のないこの頭は刈れません。次に山へ行くと、そこには、いたずらなたぬぎがいました。かにはどうするでしょう？
とみやすようこ 富安陽子	『どんぐり山の やまばあさん』 (理論社)	ドングリ山に住むやまばあさんは、296歳。そのやまばあさんは、なんとオリンピック選手より元気で、プロレスラーより力持ちだったのです。
	『ムジナ探偵局』 (童心社)	へんてこ横丁のムジナ探偵局への依頼は、どれもへんてこな事件ばかり。夢で見た白い木箱、小さなアブが運ぶ暗号の謎…。ムジナ探偵と、好奇心旺盛な少年源太の迷コンビがふしぎな事件に挑みます。
	『天と地の方程式』 (講談社)	できたばかりの公立小中一貫校「栗栖の丘学園」に通うことになった中2の田代有礼は、同級生のQと異空間に閉じこめられます。『古事記』を下敷きにした、異色のファンタジー。
	『博物館の少女』 (偕成社)	明治16年、文明開化の東京にやってきた、大阪の古物商の娘・花岡イカルは、上野の博物館の古蔵で怪異の研究をしている老人の手伝いをするようになります。博物館を舞台に、謎が謎を呼ぶ事件を描くミステリアスな物語です。